

令和4年度



京都府中学校 道德教育 研究部会

令和4年度 京都府中学校教育研究会 道徳研究部会

「研究紀要及び実践事例集」

【目次】

- p.1           あいさつ
- p.2           令和4年度 道徳研究部会 役員名簿
- p.3           令和4年度 道徳研究部 活動報告及び成果と課題
- p.4-5        令和4年度 道徳部会たより
- p.6-18      各地域中教研の活動まとめ

## あいさつ

令和4年度京都府中学校教育研究会道德研究部「研究紀要及び実践事例集」の発刊に際し、一言ごあいさつとお礼を申し上げます。

「主体的に深く考える道德科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～」の研究主題のもと本年度は、令和3年度近畿中学校道德教育研究大会京都大会における研究成果を継承し、令和5年度に控えた京都府中学校教育研究会道德教育研究大会を展望しつつ研究実践を推進してまいりました。府内の全生徒及び抽出教員を対象とした道德アンケートについては内容を刷新して実施しました。我々の現在地を示すビッグデータの分析・反映により、さらなる授業改善や評価の工夫等へとつなぐための羅針盤と捉え、鋭意対応中です。

さて、文部省が学校教育法施行規則を改正して教育課程に「道德の時間」を特設したのは、今をさかのぼること65年前です。当時の内容項目を見てみると【わがままな行動をしないで、節度のある生活をする。〔節度・節制〕】など、小学校で36項目、中学校で21項目が示されています。

時代が変わっても、普遍的な価値を追い求める姿勢は変わりません。5年前には「特別の教科」としての先行実施により改めて注目度が高まり、全国で熱心に研究実践が進められました。新型感染症の世界的な蔓延や強権的な国家による紛争、AI・ICTの劇的な進歩等、目まぐるしく変化する先の見通せないVUCAの時代にあって子どもたちが自分自身の強さ・弱さと向き合い、適切に人と関わり、より良く生きることや美しいもの・崇高なものを探究するうえで、「全ての学校教育活動を通じて行う道德教育と、その要となる道德科の授業」が果たす役割は、計り知れません。

将来、自立した社会人として幸せに暮らせるよう、子どもたちの命を守り、子どもたちがより良く社会に旅立つための道德的価値把握に係る並々ならぬ研鑽と教科・領域全般への采配に励まれる各支部の先生方とともに、引き続き「語り合い学び合う道德科の授業」づくりを推進いたします。

本研究会の活動推進にあたり、京都府教育委員会、京都府総合教育センターをはじめ、多くの皆様に多大なるご支援、ご指導、ご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

令和5年3月

京都府中学校教育研究会  
道德研究部会長 福本 浩介（舞鶴市立加佐中学校長）

# 京都府中学校教育研究会

## 令和4年度 道徳研究部会 役員名簿

	氏名	学校	TEL/FAX
部会長	福本 浩介	舞鶴市立加佐中学校（舞鶴）	0773-83-0004/3201
副部会長	菊井 雅志	宇治市立広野中学校（宇治）	0774-39-9170/9171
事務局（専門研究員会）			
事務局員	金子かおり	舞鶴市立和田中学校（舞鶴）	0774-62-0507/0544
	二谷 亮輔	舞鶴市立和田中学校（舞鶴）	0774-62-0507/0544
専門研究員	池上 儀晃	向日市立勝山中学校（乙訓）	075-921-1106/1107
	東 佳美	南丹市立園部中学校（南船）	0771-62-0222/0096

### 顧問・地域部長

地域	校数	顧問氏名	学校名	電話番号	地域部長氏名	学校名	電話番号
相楽	10	有城 義浩	精華	0774-94-2013	立入 彩子	山城	0774-86-2001
綴喜	9	脇本 佳彦	田辺	0774-62-0021	藤山 央志	培良	0774-62-9363
城久	6	伊家 直宏	西城陽	0774-53-1600	名和 哲子	南城陽	0774-53-7009
宇治	10	菊井 雅志	広野	0774-39-9170	佐飛 泰成	宇治	0774-39-9158
乙訓	9	安楽 康史	大山崎	075-957-1365	池上 儀晃	勝山	075-921-1106
亀岡	8	白方 淳史	亀岡	0771-22-0165	上島あかり	詳徳	0771-23-9393
南船	9	平井 祐子	殿田	0771-72-0031	東 佳美	園部	0771-62-0222
綾部	6	杉本 雅樹	豊里	0773-47-0020	船越 美里	綾部	0773-42-0292
福知山	10	古寺 良行	南陵	0773-22-3221	和田このみ	桃映	0773-22-3220
舞鶴	7	福本 浩介	加佐	0773-83-0004	二谷 亮輔	和田	0773-62-0507
与謝	6	白数 孝道	江陽	0772-43-1162	野口 明德	伊根	0772-32-0049
京丹後	6	関 利彦	弥栄	0772-65-2554	東 淳子	峰山	0772-62-0359

京都府教育庁指導部学校教育課 担当 指導主事 中村 一也

京都府総合教育センター 担当 研究主事兼指導主事 岩崎 佳子

# 令和4年度 京都府中学校教育研究会道德教育研究部 報告

## 1 研究主題

主体的に深く考える道德科の創造 ～語り合い学び合う授業を目指して～

## 2 研究活動の概要

### (1) 事務局会議、事務局・専門研究会会議及び地域部長会

期 日	事務局・研究会会議	地域部長会	場 所
7月4日	第1回会議	第1回会議	亀岡市交流会館
10月12日	第2回会議	第2回会議	亀岡市交流会館
12月6日	第3回会議		亀岡市交流会館
1月30日	第4回会議	第3回会議	亀岡市交流会館

「授業研究」「調査研究」の2本柱による研究推進 及び 広報活動

- ア 広報 道德教育部会だより（年1回）発行  
令和4年度京都府中学校道德教育研究会研究紀要及び実践事例集発行
- イ 調査研究 道德教育に関する取組状況についてアンケート内容の見直しと  
アンケート調査（生徒アンケート（全員）・教師アンケート（抽出））
- ウ 授業研究 府内各地域中学校教育研究会（12地域）において授業研究会（研究  
授業・評価に係る研究・ICTの効果的な活用等）を実施

## 3 研究組織

【事務局・専門研究会】 部会長 福本浩介（加佐） 副部会長 菊井雅志（広野）  
事務局長 金子かおり（舞鶴） 事務局員 二谷亮輔（舞鶴）  
研究員 池上儀晃（勝山） 東佳美（園部）

【地域部長】 立入彩子（山城） 藤山央志（培良） 名和哲子（南城陽） 佐飛泰成（宇治）  
上島あかり（詳徳） 船越美里（綾部） 角野強士（桃映） 野口明德（伊根）  
東 淳子（峰山）

- 京都府教育庁指導部学校教育課 指導主事 中村一也
- 京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事 岩崎佳子

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ア 情報交流を中心に、各地域の研究活動とのつながりを深め、府教育委員会・府総合教育センターの指導の下、継続的・組織的な活動を実施できた。
- イ 「特別の教科 道德」の授業改善及び評価について、一部地域中学校教育研究会において、授業研究会等を開催し研究を推進した。
- ウ 来年度の研究大会に向けて、生徒アンケート（全生徒）・教師アンケート（抽出）の文言を見直し、formsを利用して実施することができた。

### (2) 課題

- ア 授業力向上等道德教育を推進するリーダーの育成並びに各校・地域の実態に合わせたよりよい実践的な研究を更に深める。
- イ 新しい学習指導要領の実施にあわせて、「指導と評価の一体化」をより充実させるための研究が必要である。
- ウ ギガスクール構想に伴い、ICTを活用した道德科の授業の在り方研究をさらに進める必要がある。

# 令和4年度 道徳研究部会だより



事務局 舞鶴市立和田中学校




TEL0773-62-0507 FAX 0773-62-0544

## 令和4年度事務局・専門研究員合同会議 および地域部長会での内容報告

京都府中学校教育研究会道徳研究部会の事務局・専門研究員合同会議及び地域部長会が開催されました。今年度の事業概要と来年度の研究テーマについてお知らせします。

### ～事業概要～

◇ 府中研道徳研究部では「広報部」「調査研究部」「授業研究部」の3本柱で事業を進めています。

内容	広 報	調 査 研 究	授 業 研 究
活	◎「道徳研究部会だより」の発行 	◎令和5年度京都府中学校道徳教育研究大会の発表に向けて ◎1月～2月に実施予定のアンケートの内容検討と作成事業を実施  	◎府内各地域中教研による実施 ◎各地域における実践事例の交流 ※12ブロックの各中学校で実施 ※「道徳教育の進め方 京都式ハンドブック」の活用も踏まえて ※新型コロナウイルスの影響により授業研を行わない地域もあり
動	◎事務局会議 ※7・10・12月・1月 年4回開催 ◎事務局・専門研究員合同会議・地域部長会 ※7・10月・1月 年3回開催 ※道徳科の授業研究、ICTの活用交流、道徳科の授業実践交流 ◎「第28回近畿中学校道徳研究大会 滋賀大会」への参加 ※11月実施 ◎「第56回全日本中学校道徳教育研究大会 山形大会」への参加 ※11月実施（Web開催） ◎「京都府中学校教育研究会道徳研究部会研究紀要及び実践事例集」 ※HPに掲載予定 ◎「令和4年度 府中研道徳意識調査アンケート（生徒用・教師用）」の実施 ※1月～2月末		

◇ 第28回近畿中学校道徳教育研究大会が滋賀県高島市立マキノ中学校で開催されました。

滋賀大会に参加し、対話を通して考えを深める道徳の授業を見せていただきました。生徒達が、教材を「自分事」に置き換えて考えられるよう、ICTを活用したり問いを工夫したりされていたのが印象的でした。また、浅見調査官のご講演を拝聴し、授業では価値を教え込むのではなく生徒と共に価値を掘り下げる姿勢が大切なこと、道徳科の授業と教科や体験活動をクロスさせるようなカリキュラム作りが生徒の心を育む鍵になることなどを学ぶ機会

### ～研究テーマ～

## 主体的に深く考える道徳科の創造

### ～語り合い学び合う授業を目指して～

次ページにセンター研修で実施されました「令和4年度 道徳教育の推進講座」の内容を掲載します。今後の道徳教育の参考にしてください。

## 1 カリキュラム・マネジメント

### ① 学校の教育目標の具現化・目指す子供像の設定

子供の実態と、保護者や地域の人々の願い、教職員の願い等を踏まえて具体的な子供の姿を設定する。(例 笑顔で挨拶ができ、約束が守れる子。思いやりの気持ちを持って、みんなと仲良くできる子。)

### ② 道徳教育の全体計画・別葉の作成

③ 道徳教育の年間指導計画の作成・・・35時間中、内容項目22項目の残り13時間は教育目標や生徒の実態に即して、重点内容項目を設定し授業を計画する。各校で特色ある年間指導計画が作成できる。

④ 家庭や地域社会との連携・・・積極的な情報発信による「社会に開かれた教育課程」の実施

## 2 道徳科の時間 何を学ぶ時間?

課題

- × 主題・ねらいの設定不十分→生活体験の話し合いに終始。
- × 読み物教材の心情理解のみ。

◎ 考え、議論する道徳を視点とした授業の質的転換！授業改善！

### ① 道徳的価値の意義・大切さを理解する

- ア 価値理解・・・人間としてよりよく生きる上で大切であるとの理解
- イ 人間理解・・・大切であってもなかなか実現できない人間の弱さの理解
- ウ 他者理解・・・感じ方・考え方は一つではない。多様であるとの理解

☆ 自己を見つめ、自分との関わりで捉える。→ 成長を実感する。課題や目標を見つける。

### ② 多面的・多角的に考える

- ・ 多様な感じ方・考え方に接する。
- ・ 多様な価値観の存在を前提に考える。
- ・ 他者と対話したり協働したりしながら考える。

子ども自らが一面的に捉えるのではなく、主体的に学習に取り組めるようにする

### ③ 自己の生き方についての考えを深める

- ・ 形成された道徳的価値観を基盤とする。
- ・ 自己の生き方についての考えを深めることを強く意識する。

### ④ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

- ・ 長期的な展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ、道徳的实践につなげていくことができるようにする。

## 3 道徳科における評価の意義

☆ 成長を受け止めて認め、励ます個人内評価

### 教師（観点）

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善や充実に取り組むための資料となるもの

### 児童生徒（視点）

自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

### 指導と評価の一体化

☆ 指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価でなくてはならない。

指導は、子どもが自らのよさや成長を実感できるように工夫するもの。

評価は、子どもの成長を願って行われるもの。

子どもにとって心の成長につながる一番の評価は、信頼できる先生に認められること。



## 令和4年度 相楽地域 活動のまとめ

研究部	相楽地域中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	精華中学校 教頭 有城 義浩
			部長	山城中学校 教諭 立入 彩子
月	日	場 所	活 動 内 容	
6	15	山城中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画の決定</li> <li>・各校の取組交流</li> </ul>	
12	7	山城中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・府中研報告</li> <li>・研究授業・研究協議(木津第二中学校)</li> </ul>	
2	15	山城中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・府中研報告</li> <li>・研究部のまとめ、来年度に向けて</li> </ul>	
<p>1 本年度の研究主題</p> <p style="text-align: center;">よりよく生きる力を育む道徳教育 ～ともに語り合い、ともに考える『道徳科』の授業の創造～</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がよりよく生きる力を育むことができる魅力的な教材の開発や活用、及び指導方法の工夫改善と評価</li> <li>・諸計画の見直しと校内研修の充実</li> </ul> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の「発問の立ち位置」に関する研究の成果を共有し、各校で研修できる資料を配布できた。</li> <li>・各校での実践交流を行うことができた。</li> <li>・研究授業「ある日のバターボックス」を発問の立ち位置に意識しながら研究協議を進めることができた。また、ICTを授業の中で活用させるメリット・デメリットについても考えることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用方法を更に模索、研究していく。</li> <li>・指導書の発問を精査し、生徒の実態に合わせた授業展開の工夫改善を進める。</li> </ul>				



## 令和4年度 綴喜地域 活動のまとめ

研 究 部	綴喜地方中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問 京田辺市立田辺中学校 脇本 佳彦
			部長 京田辺市立培良中学校 藤山 央志
月	日	場 所	活 動 内 容
6	17	京田辺市立田辺中学校	<p>○第1回主任会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部長・副部長の決定</li> <li>・年間活動計画の作成</li> </ul>
<p>1 本年度の研究主題 「よりよく生きる力を育む道徳教育」 ～ともに語り合い、ともに深く考える「道徳科」の授業～</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある授業の創造に向けて、教科書を用いた効果的な授業の展開について研究を進める。</li> <li>・板書について、具体的な方法の交流や研究を進める。</li> <li>・各校の具体的な実践報告や生徒の実態にあった教材の交流、研究を進める。</li> </ul> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「道徳教育アンケート」が実施できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な部会が設定できず、各校の交流を積極的に図ることができなかった。</li> <li>・地域部長が軸となり、研究の進捗状況について共通理解を図る必要がある。</li> </ul>			

## 令和4年度 城陽久御山地域 活動のまとめ

研究部	城陽・久御山地域 中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	西城陽中学校 校長 伊家 直宏
			部長	南城陽中学校 教諭 名和 哲子
月	日	場 所	活 動 内 容	
7	7	西城陽中学校	副部長校、研究授業校 決定 事業計画の確認、各校の交流	
11	9	西城陽中学校	研究授業の指導案について意見交流	
12	7	北城陽中学校	研究授業の参観及び事後研修会	
1	11	西城陽中学校	令和4年度活動のまとめ 府中研道徳アンケートについて 各校の実践、指導案の交流 次年度の引き継ぎ事項の確認	
<p>1 本年度の研究主題 主体的に深く考える道徳科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～</p> <p>2 本年度の研究内容 ・研究授業を通して、ねらいに迫るための中心発問ができるよう、発問の内容や、それまでの流れを工夫する。</p> <p>3 本年度の成果と課題 【成果】 ・研究授業を通して、生徒が主題に迫るために、自分の立場に置き換えて想像しやすいように中心発問の聞き方や、中心発問までの流れを工夫することができた。 ・生徒の実態に合わせて、自作教材を活用することができた。 ・生徒同士の意見交流の方法について、時間配分も踏まえ、どのような交流方法がよいか交流できた。 ・映像資料の活用の仕方について検討できた。</p> <p>【課題】 ・生徒の年齢によって、その時の状況が違うので、発問の仕方を考える必要がある。 ・自作資料なども含め、各校の実践を交流できる方法を検討していく。 ・生徒の感想を道徳通信等で発信する際の方法について検討していく。</p>				

## 令和4年度 宇治地域 活動のまとめ

研究部	宇治地域中学校教育研究会 道徳教育部		顧問	広野中学校 教頭 菊井 雅志
			部長	宇治中学校 教諭 佐飛 泰成
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	11	広野中学校	第1回主任会 ※各校の交流、研究主題の設定、総会の内容確認 研究授業校の決定 など	
6	22	広野中学校	第2回主任会 ※各校の交流、中教研の研修内容について など	
12	1	宇治中学校	第3回主任会兼研修 ※第2学年による公開授業研。その後、研修会。 ※研修会は、宇治中学校校内研修と合同で行う。 ※東城陽中学校村田先生による講義および演習	
1	25	広野中学校	第4回主任会 ※今年度の取組の総括 ※次年度の引継ぎ事項の確認 ※次年度の地域部長の選定 等	
<p>1 本年度の研究主題</p> <p>『主体的に深く考える道徳科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～』</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <p>①各校の実践内容を学ぶことで、自校に持ち帰り、生徒自身の心に訴える道徳教育の実践をしていく。</p> <p>②研修を通して、授業づくりの推進教師の意識の向上を図り、自校でのさらなる道徳教育を発展させていく。</p> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p style="padding-left: 20px;">【成果】</p> <p>①公開授業を行い、講師の先生による研修をしたことで、授業づくりの観点から、「資料の読み方と指導案作り」について、再確認をすることができた。</p> <p>②各校の取り組み内容を確認することで、自校でのできることや取り入れたいことを持ち帰ることができた。</p> <p style="padding-left: 20px;">【課題】</p> <p>①各校の実践(校内研や独自の取り組みなど)の交流ができたが、深めることができなかった</p> <p>②研究主題に迫れる内容が薄かった。</p>				

## 令和4年度 乙訓地域 活動のまとめ

研究部	乙訓地域中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	大山崎中学校 教頭 安楽 康史
			部長	勝山中学校 指導教諭 池上 儀晃
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	10	勝山中学校	第1回道徳教育研究部会 ・本年度の研究活動方針・活動計画の確認	
1	13	大山崎中学校	第2回道徳教育研究部会 ・本年度の総括と実践交流	
<p>1 本年度の研究主題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に深く考える道徳、語り合い学び合う道徳の授業を目指した指導方法の工夫</li> <li>・「道徳の授業」の充実を目指した校内研修の在り方</li> <li>・学校教育全般を通して行う道徳教育の推進</li> <li>・「道徳の授業」に関わる、評価の在り方</li> </ul> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業について、ねらいを達成するための指導方法の工夫</li> <li>・校内研修の研修テーマや具体的研修内容(乙訓地域内での公開授業を活用した研修)など、研修の在り方</li> <li>・道徳教育の推進に向けた道徳教育推進教師の役割</li> <li>・教育課程上の工夫(時間割上の位置付け、学活、総学時との関連等)</li> </ul> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p style="margin-left: 20px;">【成果】</p> <p style="margin-left: 20px;">研究課題に沿って、公開授業、研究(輪番道徳)授業等行い、道徳授業の実践を積むことができた。その中で情報機器の活用などの工夫がされ、成果や課題が示されるようになってきた。</p> <p style="margin-left: 20px;">他の教科、領域、活動などを道徳の授業と関連づける実践が行われた。</p> <p style="margin-left: 20px;">評価についての交流も行え、学習活動に立ち返る評価が行えた。</p> <p style="margin-left: 20px;">【課題】</p> <p style="margin-left: 20px;">公開授業について、各校での実践をより多くの教員が参観できるようにしていく方針にしたがい、今後もより計画的に進めていく必要がある。</p> <p style="margin-left: 20px;">輪番道徳についての実践から得られた成果を効果的に広めていく。</p> <p style="margin-left: 20px;">さらに交流する機会をつくり、他校の優れた実践を広めていく。</p> <p style="margin-left: 20px;">情報機器の活用について、その課題を明確にしながら有効な活用方法を工夫していく。</p>				

## 令和4年度 亀岡地域 活動のまとめ

研究部	亀岡地域中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	亀岡中学校 校長 白方淳史
			部長	詳徳中学校 教諭 上島あかり
月	日	場 所	活 動 内 容	
7	7	詳徳中学校	第1回道徳教育部会 今年度の活動および研究方針の確認 地域副部長の決定 府中研からの連絡事項伝達	
10	19	大成中学校	公開授業研究会兼第2回道徳教育部会 1年生学級の授業参観と事後研修会 各校の実践交流と令和5年度京都府中学校教育研究会道徳研究大会のレポート作成についての内容の検討	
2	13	詳徳中学校	第3回道徳教育部会 各校の実践交流 予算決算について確認 今年度総括・次年度申し送り事項確認・検討など	
<p>1 本年度の研究主題 「主体的に深く考える道徳科の創造 ～語り合い、学び合う授業を目指して～」</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各校での実践を交流し、効果的な道徳の授業の在り方について検討する。</li> <li>・各校で道徳教育の推進、充実に向けた研修や指導体制の工夫に取り組む。</li> <li>・学習指導要領全面実施に伴い、これまで蓄積してきた研究をさらに深め、充実させる。</li> </ul> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校での実践を交流する中で、授業改善の方向性や、生徒が深く考え学び合える方法について考えることができ、各校の意識を高めることが出来た。</li> <li>・ICTの活用について、特にロイロノートの活用方法を、公開授業を含め交流を通して具体的な例をもとに確認することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末の有効な活用方法について、今後も検討が必要である。ロイロノートを使っての意見交流と生徒自身が発言しての意見交流についてなど、それぞれのメリットとデメリットを教える側が理解し、取捨選択していくことが求められる。そのためにも、率先して使用した実践を交流し、授業改善につなげていくという視点を持ってよりよい使い方について検討していく。</li> </ul>				

## 令和4年度 南丹・船井地域 活動のまとめ

研究部	南丹・船井地域 中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	南丹市立殿田中学校 教頭 平井 祐子
			部長	南丹市立園部中学校 教諭 東 佳美
月	日	場 所	活 動 内 容	
4	27	南丹市立園部中学校	第1回 主任会 ・研究主題・方針・年間活動計画等の策定	
8	4	南丹市立園部中学校	第2回主任会 ・府レポートについて、研究授業について	
11	4	南丹市立園部中学校	第3回主任会 ・指導案持ち寄り、事前授業の交流 ・レポートについて	
1	26	南丹市立八木中学校	南船道徳教育研究授業、第4回主任会 ・研究授業「銀色のシャープペンシル」1年(八木中学校) ・研究協議、講演 ・今年度の総括等	
<p>1 本年度の研究主題 「よりよい生き方について、ともに考える「道徳科」の授業の創造に向けて」</p> <p>2 本年度の研究内容 (1)授業研究会などを通して、道徳的価値の自覚を深める授業展開を構想する。 (2)「特別の教科 道徳」の評価に関する交流・研究を進める。</p> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を設定し、各校で狙いに沿った指導案を作成し、事前授業を実施した。</li> <li>・事前授業の結果(指導案・生徒の反応)を持ち寄り、「授業作り」について議論し、研究授業の狙いに迫る工夫を探ることができた。</li> <li>・昨年度に実施した、南船地域の道徳アンケートの結果から、府レポートのテーマを「地域道徳」に決定し、現時点での各校の様子をまとめることができた。</li> <li>・各校での道徳教育の推進・充実に向けた研修や指導体制の工夫が進んだ。</li> <li>・地域道徳として、地域と密に連携し、活動を進める学校が見られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業展開・発問・評価等について、地域の課題に即し道徳研究を発展・充実させる。</li> <li>・「地域道徳」の率先した取り組みを参考にして、各校の実態に沿った「地域道徳の取り組み」を何れも全体の物にするべく試行していく必要がある。</li> </ul>				

## 令和4年度 綾部地域 活動のまとめ

研究部	綾部地域中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	綾部市立豊里中学校 教頭 杉本 雅樹
			部長	綾部市立綾部中学校 教諭 船越 美里
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	11	中筋小学校	春季研究会 ・今年度方針の確認 ・ブロックの実践交流	
8	18	綾部中学校	夏季研究会 ・講演 ・授業研究会に向けて事前研究	
11	2	綾部小学校	授業研究会 ・綾部小学校4年生「ゲームのやくそく」	
<p>1 本年度の研究主題 「主体的に深く考え、議論する道徳科の創造」 ～語り合い学び合う授業を目指して～</p> <p>2 本年度の研究内容 ・「主体的、対話的で深い学びのある授業」の研究 ・「考え、議論する授業」の実践交流 ・小中合同での指導案検討、交流、研究授業の実施</p> <p>3 本年度の成果と課題 【成果】 ・部会を小・中合同で行い、小中一貫教育を意識して取組を進めることができた。 ・夏季研究会では、綾部市教育委員会の高橋直美指導主事様を招いて、「特別の教科道徳の授業づくり」について講演いただいた。主体的、対話的、深い学びに繋がる指導の方法について学んだり、授業の中で大切にしていける教材の出会いや、自分や友達との考えの出会い方について教えていただいたりした。今後の道徳科の授業づくりに生かせる内容となった。</p> <p>【課題】 ・本年度の部会は、授業研究会に向けての指導案検討や講演が中心となったので、各校の先生方の実践交流や悩んでおられることなどを共有する場の設定があまりできなかった。 ・「考え、議論する」道徳科の授業づくりの方法について学べる場がもっとあれば良かった。</p>				

## 令和4年度 福知山地域 活動のまとめ

研究部	福知山地域 中学校道徳科教育研究		顧問	南陵中学校 教頭 古寺 良行
			部長	桃映中学校 教諭 角野 強士
月	日	場 所	活 動 内 容	
8	19	南陵中学校	夏季全員研修会 道徳科の授業づくり・評価について 講師 高橋晋介教諭(南陵中学校) 講義・ワークショップ	
1		校務支援システムの メール機能	本年度の実践交流 府中研道徳アンケートの実施	
2		校務支援システムの メール機能	本年度の総括	
<p>1 本年度の研究主題</p> <p style="text-align: center;">「主体的に考え、伝え合う」 ～ともに学び合う「道徳科」の授業の創造～</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月19日に各校道徳主任が集まって福知山市夏季全員研修会を行い高橋晋介先生の講義を研修、協議を行った。</li> <li>・各校の道徳実践を交流し、今後の授業発展につながった。</li> </ul> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋教諭の講演やワークショップから、道徳授業についての心構えや発問の設定の仕方について学びを深めることができた。</li> <li>・夏季研修会での各校の実践交流を通して、道徳の実践について協議することができた。</li> <li>・府中研道徳アンケートの実施を行ったことにより、道徳科について振り返るとともに、全体の傾向の把握をすることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝え合う」道徳科の創造のために有効なICT活用については、今後検討していかなければならない。</li> <li>・問題解決的な学習についても研究を進めていく必要がある。</li> </ul>				



## 令和4年度 舞鶴地域 活動のまとめ

	舞鶴地域中学校教育研究会 道徳教育研究部	顧問 部長	加佐中学校 福本 浩介 和田中学校 教諭 二谷 亮輔
月	日	場 所	活 動 内 容
4	20	城南中学校	道徳部会 ・本年度の活動方針、研究計画の確認
6	24	和田中学校	第一回主任会 ・各校の評価と実践交流 ・来年度の大会に向けて
8	23	和田中学校	第二回主任会 ・授業研究会に関して ・来年度の大会に向けて
12	2	和田中学校	師範授業 川崎先生による研修会 講師 川崎 雅也 校長先生 教材 第一学年「命の木」 教材 第二学年「スカイツリーにかけた夢」 教材 第三学年「闇の中の炎」
1	17	若浦中学校	授業研究会 事後研究会 授業者 水谷 省吾 教諭 教 材 カメは知っていた 第3回主任会 ・今年度の実践交流と振り返り ・来年度の大会に向けて
<p>1 本年度の研究主題 「豊かな人間性を育む道徳教育 ～語り合い学び合う授業を目指して～」</p> <p>2 本年度の研究内容 (1)来年度の研究大会に向けて公開授業や模擬授業を通じた授業改善 (2)師範授業を通して指導方法や授業実践の研究 (3)ICTの効果的な活用</p> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p><b>【成果】</b> ・師範授業を実施したことで、これまでにない視点で発問の工夫や授業の展開、教材研について学ぶ貴重な機会となった。来年度の府大会に向けて考え議論する道徳の在り方を考えるとともに、各校で実践に活かすことができた。 ・各校における実践の交流を通して、ICTの活用や各校の取組を自校の実践に活かすことができた。また、ICTの活用ではシンキングツールを使った授業実践を研究することができた。</p> <p><b>【課題】</b> ・主任会や各校の実践を記録や資料といった舞鶴市の財産として残しておく必要がある。発問の選定や授業展開のアイデアなどを市全体で共有することで授業の質の向上につながるかもしれない。 ・ICT の活用について研究を進め、各校で実践を行ってきたが、効果的な活用になっているかどうかは今後も研究を進めていく必要がある。 ・道徳ノートの在り方や活用方法について検討をしていく必要がある。</p>			

## 令和4年度 与謝地域 活動のまとめ

研究部	与謝地方 中学校教育研究会 道德教育研究部		顧問	江陽中学校 教頭 白数 孝道
			部長	伊根中学校 教諭 野口 明德
月	日	場 所	活 動 内 容	
4	13	岩滝ふれあいセンター	第1回部会	・活動方針、事業計画、予算計画について
8	18	江陽中学校	第2回部会	・地域部長会の報告、実践交流 来年度レポート発表について
10	25	江陽中学校	第3回部会	・地域部長会の報告、研究授業の指導案検討について
11	7	江陽中学校	第4回部会	・授業研究会「元さんと2通の手紙」 新井 峻真 教諭(江陽中学校) 時田 元太 教諭(江陽中学校) 吉岡 直樹 教諭(江陽中学校)
1	31	栗田中学校	第5回部会	・府中研発表用レポート検討 ・授業研究会「よしと」 塩見 優真 教諭(栗田中学校) ・今年度のまとめ ・予算計画について
<p>1 本年度の研究主題 「主体的に深く考える道德科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～」</p> <p>2 本年度の研究内容 ・授業研究会を通じた授業づくりについての研究 ・実践交流(各校で実践した資料・指導案等の交流)</p> <p>3 本年度の成果と課題 【成果】 ・計画通りに研究授業を2回行うことができ、語り合い学び合う道德教育について研究を深めることができた。 ・生徒アンケート・教師アンケートを実施し、それぞれの思いを知ることができた。 ・研究レポートの作成に向けて、交流・検討しながら1つの指導案を作成することができた。 【課題】 ・語り合い学び合う授業となるようさらに研究を深める。 ・実践の中でICTをどのように活用するかを継続して検討していく。 ・アンケート結果を考察し、課題を見つけて次年度によりよい研究ができるように考える。</p>				

## 令和4年度 京丹後地域 活動のまとめ

研究部	京丹後市 中学校教育研究会 道德部会		顧問	弥栄中学校 校長 関 利彦
			部長	峰山中学校 教諭 東 淳子
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	19	峰山中学校	第1回部会 役員体制、研究テーマ、活動計画等の確認	
8	25	峰山中学校	第2回部会 府中研地域部長会の報告、教育課程研の伝達講習 評価について振り返りと今年度の方向性の確認 実践交流、研究授業の事前研究	
10	25	網野中学校	第3回部会及び研究授業 研究授業 C-(13)「午前一時四十分」 網野中学校 北野 健太 教諭 →警報発令により中止 「道德教育の推進講座」の伝達講習 府中研地域部長会の報告	
<p>1 本年度の研究主題 よりよい生き方を育む道德教育 ～語り合い、深く考える「道德科」の授業の創造～</p> <p>2 本年度の研究内容 (1)「語り合い、深く考える」授業づくりに向けた研究授業 (2)「令和5年度版評価・評定基本表」作成に向けた評価の振り返り、方針等の確認 (3)実践交流</p> <p>3 本年度の成果と課題 【成果】 ・警報発令により研究授業を実施することができなかったが、事前研究を行い、授業づくりについて学ぶことができた。 ・各校の授業実践や評価の取組について交流し、今年度の授業づくりや評価の改善に生かすことができた。 ・指導案や資料を電子データで共有できた。 【課題】 ・教材研究・授業研究・授業交流を引き続き行い、京丹後市全体の授業力を上げる取組を進める。 ・子どもの成長を認め、励ますためのよりよい評価を行っていく見取りの方法や生徒の振り返りについて、今後も評価研究を継続する。 ・市内全中学校で共通の評価シートを活用することにより、評価の偏りといった課題が挙げられた。授業改善につなげられる気付きとして、来年度の授業改善につなげていく。 ・各校で小中連携の中でも、道德の授業公開を積極的に推進する。</p>				



京都府中学校教育研究会 道德研究部会

「令和4年度 研究紀要及び実践事例集」

令和5年3月 発行